

日常的に周囲と助け合い 地域ともつながり両立実現

河村電器産業

05

河村電器産業は100年近い歴史を誇る電気機器製造のものづくり企業。製造業といえば男性中心の職場というイメージが強いが、成長には多様な人材の力が不可欠と女性活躍に熱心に取り組む。特徴的なのは会社のトップと社員が直接意見を交換できる「女性活躍推進プロジェクト」の存在。プロジェクトの一員であり、人事部社員として女性の活躍や男性の家事・育児参加支援など一人ひとりにあった就労の形を模索することに取り組むのがロールモデルの木村あずさん。朝8時から夕方



5時までのフルタイム勤務をしながら一人の男児(5歳)を育てている。

仕事が終わると、保育園に長男を迎えに行く。その後は自宅近くの公園へ。遊んでいると、自然と近所の子どもや親たちが集まってきてにぎやかになる。営業職である夫の帰宅時間は不規則だが、「普段から近所の方と助け合っている」と話す木村さん。その姿にインターン生は「頼りにできるのは家族だけではない」「会社や近所なども両立を支えている」と職場や地域とつながることの大切さも学んだ。



三重大学3年
倉内耕平さん

家庭生活も含めた「将来の姿」

将来、自分がどのように仕事と家庭を両立しているかを考えたことがなく、イメージが全くできなかった。しかし、今回の経験を通して自分の「将来の姿」をより考えるようになり、男性の自分も家事や子育てをしていきたいと感じた。

先入観が払拭され、楽しみに

仕事と子育てのどちらかを諦めなくてはいけないのでは、という先入観で壁を感じていたが、将来について前向きにイメージでき、数年後の生活が楽しみになった。今回の経験を活かして「なりたい自分」を決めていき、両立に挑戦したい。



南山大学3年
山本美優さん

河村電器産業株式会社 □本社所在地/愛知県瀬戸市
□事業内容/電気機器製造販売 □従業員数/1,892名

(2017年3月31日現在)

仕事と家庭のインターンシップ in あいち

インターンシップ 1日の流れ (イメージ)

<p>企業での インターン</p>	13時	17時30分	<p>家庭での インターン</p>
	14時	18時	
	15時	19時	
	17時	20時	
	<p>13時 出社・自己紹介等 14時 職場見学・仕事体験 15時 先輩社員等のインタビュー 17時 退社</p>	<p>17時30分 保育園にお迎え 18時 家事・育児体験(夕食の準備・遊び) 19時 夕食・家族と対話 20時 帰宅</p>	

報告会

報告会にはインターンシップ受入企業をはじめ、企業・団体・教育関係者などが参加。体験を終えた大学生が、意識の変化や行動宣言を発表した後、会場にいる参加者全員でのトークセッションが行われた。

【参加者の声】～来場者アンケートより抜粋～

- 同世代の学生が貴重な経験をしていることが、大変刺激になった。生の声を聞くことができ、新しい視点を得ることができた(学生)
- 企業としてキャリアプランだけでなく、ライフプランの提案が必要であることに気がついた(企業関係者)
- 両立に対し、学生が前向きに将来を考える姿に感銘を受けた。このような企画が今後もあると良い(企業関係者)
- インターンを通じ、学生がいま学んでいる分野を振り返って気づきを得られていることが良かった(教育関係者)



インターンシップの様子は動画でもご覧いただけます
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/rodofukushi/report.html>



2組のインターンシップに密着!
学生、従業員の方の生の声を収録!

※レポートに記載されている内容は、実施当時のものとなります。

ドコモCS東海



JTB中部

仕事と家庭の インターンシップ in あいち

REPORT



東海東京証券

仕事が好き、家族が好き
そう言える働き方を。



CBCテレビ



河村電器産業

愛知県では、今後、社会の担い手となる若い世代の方が、仕事と家庭の両立体験を通じ、長期的な視野で人生設計を考える「仕事と家庭のインターンシップinあいち」を実施しました。このインターンシップは、学生が企業での就業体験をするだけでなく、そこで働く子育て中の従業員の家庭を訪れ、家事や育児もあわせて体験するもので、10名の学生(2人1組)が5社・5家庭を訪れ、仕事と家庭の両立について理解を深めました。



信頼関係を築き周囲に理解 日頃の工夫で充実した日々

ドコモCS東海

01

ドコモCS東海は復職支援、両立支援について制度の整備のみならず、職場と家庭の相互理解を深める「家族参観日」などの独自の取組も積極的に行っている。総務部で育成・ダイバーシティ推進を担当するのがロールモデルの鎌倉梓さん。自身もスライドワーク(始業・終業時間の繰上げ・繰下げ)などの制度を活用しながら、日々働きやすい職場づくりに取り組んでいる。育休復帰後は生産性を高めることにこだわったようになったという鎌倉さん。同僚とのチームワークの良さに驚いたインターン生は「周囲の助



けは日頃の信頼関係の上に成り立つもの」と限られた時間で最大限のパフォーマンスをすること、コミュニケーションの大切さを学んだ。



短時間勤務の定時で仕事を終え帰宅。途中保育園に一人息子(4歳)を迎えに行く。「料理はできるだけ休日にまとめて作り、平日の家事は手を抜いている」という鎌倉さんの生活の工夫に「仕事も家事も効率よく行うことで、実りのある充実した一日が過ごせる」と目を輝かせた。



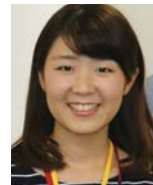
名古屋市立大学3年
浅田愛実さん

「言葉にすること」の大切さ

周囲の理解を得るためには、普段から信頼関係を築くとともに、自己主張もしなければならないと知った。職場でも夫婦間でも、コミュニケーションをしっかりとって情報を共有していくなど、「言葉にすること」がいかに大切かがわかった。

両立に対するイメージが変化

仕事と家庭の両立は、負担がかかる、周囲に迷惑をかけてしまう、などの印象があったが、日頃の生活の工夫次第で、プライベートも充実させながら、キャリアアップを目指すことができるというポジティブなイメージを持つことができた。



南山大学2年
広瀬由希菜さん

株式会社ドコモCS東海
□事業内容/電気通信事業

□本社所在地/愛知県名古屋市
□従業員数/1,772名

(2017年4月1日現在)

パイオニアとして環境整備 両立によって人生が豊かに

JTB中部

02

旅行販売を中心に多岐にわたる事業を展開するJTB中部。ロールモデルは名古屋仕入業務部で法人営業などの後方支援を行う御厨泉さん。女性が働き続けられる職場づくりに積極的に取り組む会社だが、以前は出産を機にキャリアを諦めてしまう女性も多かったという。しかし、「一度も仕事をやめたいと思ったことがない」という御厨さんのような先輩社員の姿を見て、徐々に仕事と家庭の両立が広がった。復職後の働き方もそれぞれの環境に合わせて多様になっている。



発券業務の体験などを優しく笑いかけながら教えてくれる御厨さんも日頃は限られた時間の中、息つく暇もなく仕事をしているという。家に帰れば三人の娘(9歳、3歳、2歳)の母として家事をこなす。近くに住む両親の支えもあり「家庭があるから気持ちが切り替えられ、仕事も楽しく頑張れる」と話す御厨さんに「両立は家族のためと思っていたが、自分の人生の豊かさにもつながる」とインターン生も感激した様子。「やりたい仕事をしながら、家庭も充実させたい」と決意を言葉にした。



名古屋大学3年
田中万葉さん

夢に向かって頑張る姿が印象的

インターンを通して出会った両立女性に共通していたのは、社会人になっても夢を持っており、夢に向かって頑張っている姿で、それがとてもカッコよく映った。私も将来そんな人になり、次世代に両立の見本を見せられるようになりたい。

自分もいつか“パイオニア”に

子育てをしながら仕事をするために行動するパイオニアとともに、支える側のパイオニアも必要であることを知った。自分が社会人になった時には、今回の経験を思い出し、働きやすい環境づくりを率先して行うパイオニアになりたい。



金城学院大学1年
玉垣真由子さん

株式会社JTB中部
□事業内容/旅行業

□本社所在地/愛知県名古屋市
□従業員数/1,037名

(2016年12月1日現在)

Work Style

夫婦二人三脚で役割分担 仕事が育児のリフレッシュ

東海東京証券

03

東海東京証券は重要な経営戦略として、ダイバーシティの推進に取り組み、平成28年度に「あいち女性輝きカンパニー」優良企業表彰を第一号として受賞した企業の一つ。森田雅莉さんは同社で顧客の資産運用、相続・承継などのコンサルティングを行う営業職。仕事も家庭も自分の都合だけでは予定が決まることが多く、今でも試行錯誤しているという。会社員の夫とはあらかじめお互いのスケジュールを共有し、二人の娘(5歳、2歳)の保育園への送迎などを分担している。育児も仕事しながら、効



率よく予定を組むことで、夫婦二人三脚でここまで来た。



余裕のある朝や昼の時間に上司への報告を行うなどの森田さんの工夫を知り、「先の予定を考えて行動することや、時間の管理をしっかりしてメリハリをつけることが重要」と学んだインターン生。「仕事が育児のリフレッシュになり、子育ての時間があるからこそ集中して効率よく仕事もできるということを周りの友人にも伝えたい」と自らの両立にも手応えを感じた様子だった。



南山大学2年
安藤瑠莉さん

挑戦して自分なりのスタイルを

インターンで出会った両立女性は、自分の置かれた環境の中で助けてくれるものを最大限利用し、やりがいをもって生き生きしている姿が印象的だった。まずはチャレンジして、自分なりの両立スタイルをつくれればよいと学んだ。

こだわりを持ちすぎずに両立

仕事には優先順位をつけるようにし、家事も手を抜けるところは手を抜いて「こだわりを持ちすぎないようにしている」というロールモデルの言葉を聞き、仕事も育児も全力でやらないことも時には必要だと、初めて考えることができた。



岡崎女子短期大学1年
小林亜海さん

東海東京証券株式会社
□事業内容/金融商品取引業

□本社所在地/愛知県名古屋市
□従業員数/2,238名

(2017年12月31日現在)

職責を果たし助けを得る 抱え込まずに楽しく両立

CBCテレビ

04

「仕事が大変そう」「時間が不規則」というイメージが強いマスコミ業界。しかしCBCテレビは報道や制作、事業といった第一線でもワーキングマザーが働いている。それは制度の拡充はもちろんのこと、相互理解を大切にし、女性が出産後も継続して活躍できる環境づくりに力を入れているから。丸山蘭那さんは、事業局でイベントやコンテンツ開発に従事するイベントプロデューサー。多岐にわたる業務の中から、インターンでは地元アイドルグループのDVD発売イベント、テレビ番組のナレーション収録などを体験。



限られた時間の中でできばきと仕事をこなす丸山さんだが、「時には自分の力だけではどうにもならず助けてもらう」とも。インターン生も「制度が整っていることが重要なのではなく、普段の働きぶりを通じて職場の仲間から信頼を得ている」とまずは職責を果たすことの大切さを痛感した様子。仕事を終えると慌ただしく保育園に一人息子(4歳)を迎えに行くが、道中で会った同じく母親でもある同僚と楽しそうに話す姿を見て「よくコミュニケーションを取り一人で抱え込まないことが大事」と実感した。



大同大学3年
廣瀬亜純さん

頼ること、巻き込むことも大切

仕事と家庭の両立は、母親が一人で頑張らなくてはいけないというイメージが強かったが、今回の経験を通して、周りを頼ることへの不安が軽くなった。また、一人で抱え込まないほうが周囲の人にもあまり心配がかからないと学んだ。

理解・共感を得る関係づくり

自分のことを周りに理解・共感してもらえような関係づくりと、感謝を忘れないことが大切と感じた。インターンに参加する前は、「制度が整っているか」「いかに活用するか」を意識していたが、自らが能動的に行動することの重要性を知った。



南山大学2年
山田紗佑里さん

株式会社CBCテレビ
□事業内容/放送・番組制作

□本社所在地/愛知県名古屋市
□従業員数/329名

(2016年4月1日現在)

Life Style